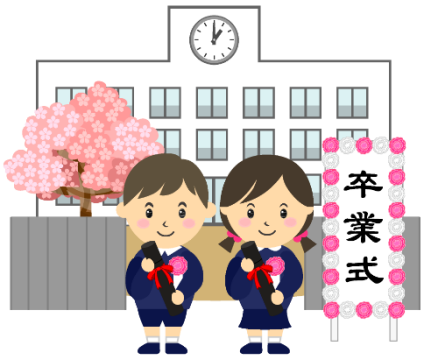
令和５年度　学校だより　学校教育目標「せいいっぱい　きたえ　のびよう　東っ子」

東白川小だより

令和６年３月 25 日(月)　№13

校長　　桂川　辰也

卒業生に学ぶ！



かがやき学習発表会では、ユーモアたっぷりな劇で、「私たちの宝物は、６年間の成長と変化そのものだ」と力強く発表してくれました。一つ一つの出会いや出来事を大切にしているみなさんの発表から「一期一会」という言葉が頭に浮かんできました。また、この学年には6年間で3人の転入生がいましたが、この3人を筆頭に15人全員の持ち味が十分に生かされた演出になっていて、本当に、一人一人を大切にする優しい学年だとつくづく感じました。

卒業式の校長式辞の一部です。新たに加わった仲間が馴染みやすく、自分の持ち味を十分発揮することが出来た６年生に、東白川村の未来を見ました。

「多文化共生社会」という言葉を聞かれたことはありますか？国籍、民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し合い、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会のことです。この子たちなら「日本一生活しやすい東白川村」を築き上げてくれると思いました。

「あぁ　この子は大人だ」「私も見習いたい」と校長先生が強く感じた出来事を紹介します。

一つ目は、ある雨の日の坂道下校の時です。多くの子が「なんでこんな雨の日に歩かせるの・・・。」とブツブツ言いながらバスに乗り込んでいました。そんな時に、6年生のある子がニコッと会釈をして、「さようなら。」と目の前を通過しました。「さすが6年生だね。」と声をかけると、「私も嫌だとは　思っているよ。」と、これまたニコッとしながら口にして、バスに乗り込んでいきました。

「思うことは自由だけど、その思いをどう示すのが良いか？」みんなが楽しく生活するために大切なことを教えてもらった気がしました。いい子ぶっている訳でもない、彼女の自然な振る舞いを、私も見習いたいと思いました。

二つ目は、先日のかがやき学習発表会の感想交流の時です。「僕は1年生の発表を見て、僕が1年生の時にはできなかったことをたくさんやっていて凄いと思いました。」というような感想を言ってくれた6年生がいました。

毎日の登下校や掃除、なかよし遊びなど、学校生活のあらゆる場面で自分たちをリードしてくれた6年生に褒められ、1年生の子たちは大きな自信をつけました。人の上に立った時、どうしたらみんなが付いてきてくれるのか？そのヒントが彼の言葉にありました。威張る必要も、特別な力を付ける必要もない。「一人一人を大切にするだけで良い。」そんなことを強く感じました。4月から最上級生になる5年生のみなさんにも、是非頭に焼き付けてほしい姿でした。

こちらも式辞の抜粋です。ここに紹介した６年生の良さは、保護者や地域を始め多くの人と触れ合い、様々な体験を積み重ねた成果です。改めて感謝申し上げます。

さて、今年度もいよいよ残すところ僅かとなりました。保護者や地域の皆様には、ご心配をおかけすることもあったかと思いますが、学校の教育活動について、ご理解ご協力を賜りありがとうございました。今後もよろしくお願いします。